

親しく正しく和かに

当山先々代三吉日照上人の提唱による
当山スローガンです
揮毫=大本山本興寺御開士大平日晋上人

季刊『寺楽寿』は東京都世田谷区北烏山の法華宗（本門流）
本覺山妙壽寺が発行する寺報です。
檀信徒の皆さまをはじめ、妙壽寺にご縁のある皆さまに
広くお読みいただければ幸いです。

寺楽寿

No.46

令和3年9月1日発行



本覺山 妙壽寺 〈法華宗（本門流）〉
〒157-0061 東京都世田谷区北烏山 5-15-1
電話 03-3308-1251 FAX.03-3308-7427
ホームページ <http://myojuji.or.jp>



ワレコラム No.4

観劇に感激

令和3年6月の大歌舞伎「日蓮」は、私としては僥倖に巡り会えたとも言えるものであります。昭和45年、私が立正中学に在学の際、母が厄任職を勤めておりました。その母が歌舞伎座に連れていかれたことがありました。その時の演目は二代目尾上松緑（現在の四代目の祖父）が演じた「達陀」という東大寺二月堂お水取りを題材にした舞踊劇でした。若手の役者さんたちが、トロボを切るなど大変躍動的な演目でした。おそらく母としては僧侶としての教養にと、私に観させたかったであろうと思います。それから10年して母は亡くなりましたが、歌舞伎という文化に触れさせてもらったことは、私の人生の中で大きな出来事として心に刻まれ、母の思い出と共に歌舞伎座は特別な場所となりました。



令和3年は
宗祖御誕生
800年



境内の鳥瓜（カラスウリ）
花期は7月から9月。開花が始まるのは夜で、翌朝にはしおれてしまう一日花です。秋には殊赤や青い実となります。宮澤賢治の『銀河鉄道の夜』に「それは今夜の星祭に青いあかりをこしらえて川に流す鳥瓜を取りに行く相談らしかったのです」という情景など、7カ所に記されています。（撮影/当住久美夫人）

追悼 能楽界の至宝、7月13日 浅見真州師ご逝去

当山では十年前に当住久美夫人父浅見真高師の発願により、毎年秋に竹灯籠能が催されています。真高師実弟の真州師に毎回のよう仕舞、地謡、後見をお勤めいただき、竹灯籠能の開催にご尽力をいただきました。心よりご冥福をお祈りいたします。
（令和元年11月第9回竹灯籠能で仕舞を演じる浅見真州師）



【略歴】
あきみまさくに
浅見真州師 観世流職分
昭和16年 浅見真健の五男として生まれる。父および故観世寿夫に師事。海外公演、異流競演、新作、復曲等を数多く手がける。
平成16年 芸術選奨文部科学大臣賞受賞
平成17年 紫綬褒章受賞
平成23年 旭日小綬章受賞
平成25年 芸術院賞受賞
社団法人鏡仙会理事
公益社団法人能楽協会・社団法人日本能楽会会員

寺日記

- 5月29日 下谷感應寺入山式 福島大祐上人（第32世）は、住職39年在職の師父福島典雄上人より法燈を継承されました。①
- 6月2日 棚経会（棚経の打ち合わせ会） 棚経会（棚経の打ち合わせ会） 初日、当住上人は日蓮宗より鑑賞招待を受け、また当山より24名が4日に分かれて鑑賞。②
- 6月20日 当山総代内田祥哉先生四十九日忌埋葬式 於青山墓地
- 6月25日 当山猿江家屋上棟式
- 6月30日 当住上人沼津諸寺院挨拶廻り
- 7月2日 15日 孟蘭盆会棚経
- 7月13日 当住久美夫人叔父能楽師浅見真州師逝去（上記参照）
- 7月16日 同17日、代々幡斎場にて葬儀。 烏山仏教会前会長・元全仏部長 吉橋勝寛上人妙高寺住職ご遷化 同18、19日通夜・葬儀。 当山孟蘭盆会施餓鬼法要
- 7月16日 11時新盆法要各家60余名、14時盆法要200余名にご参拝いただきました。
- 8月1日 大原麗子さん（命日8月3日）十三回忌法要奉修
- 8月9日 15日 孟蘭盆会棚経 稻生雅治元総代（猿江別院建立、智徳院法晋日雅大居士）十三回忌奉修 於猿江別院③
- 8月15日 終戦追悼法要 大坪顕孝師奉修

法要のご案内 (別紙参照)
コロナウイルス感染の拡大防止のため、感染対策を十分に行い奉修いたします。
秋季彼岸会中日法要
9月23日(木・祭) 初座 午前11時 第二座 午後2時
宗祖第740遠御忌御会式
11月3日(水・祭) 法話:午後1時 御会式法要:午後2時
お焚き上げ供養
12月23日(木) ご不要の仏具について 毎年、諸仏具抜却法要を境内にて奉修し、お焚き上げ供養を行っております。ご家内にてご不要のお仏具等は当山に相談の上、ご持参ください。
元旦国禱会
1月1日(土・祭) 午前5時

新規募所 ご案内
3R×4R=6基
3R×3R=6基
2R×2R=8基
詳細は当山までお問い合わせください。

宗務院 DIARY
6/15, 6/24, 8/30 内局会議
6/9 宗務顧問会 於京都大本山本能寺
6/16, 17 第76回定期宗会 於浅草ビューホテル④
6/24, 25 全国宗務所長会
6/28 法華宗連絡協議会総会(WEB)
7/26 学務協、内局会議 於本能寺

正隆会 [SHORYU-kai] 午後2時開催
当山では、毎月第2土曜日午後2時より月例講正隆会を開催しております。仏教や法華経についての勉強会や写経会、またウォーキング課外活動を行っています。檀信徒、ご友人どなたでも参加できます。例会では、毎回1時半より正隆前法要を奉修しております。
新型コロナウイルス感染拡大防止のため距離距離をとり、実施いたします。
9月11日 勉強会「日蓮紀行」拝読 14
10月9日 勉強会「日蓮紀行」拝読 15
11月13日 勉強会「日蓮紀行」拝読 16
12月11日 二千篇唱題行
1月8日 初題目
2月3日 節分会追儺式(豆まき)
3月12日 勉強会「日蓮紀行」拝読 17

第11回 竹灯籠能・落語会
竹灯籠能 かきつばた「杜若」×一之輔落語
浅見慈一 師 春風亭一之輔 師匠
令和3年11月20日(土) 於 妙壽寺本堂 開演 13:30 (開場 13時)
チケットのご予約は9月から予定しております。詳細は代々木能舞台ホームページにてお知らせ致します。
代々木能舞台 検索



猿江別院御写経会
次の日程で、すべて午後1時より午後7時まで開催。
10月14日(木)-12月9日(木) 参加費:500円



境内情景
玉蟲繁殖の樹木
当山境内に玉蟲が繁殖する樹木があります。玉蟲の成虫はニレ科の植物の葉が大好きです。
桐(ひぐらし)の空蟬
ひぐらしの谷出て 積乱雲の寺へ 金子兜太
今夏、開花した大賀ハス(古代ハス)と鶴沼晴明庵の睡蓮。
（撮影/当住上人）

宗祖聖誕 800年記念・本堂落慶35周年記念インタビュー

田中省一氏（当山世話人・鳥山駅前通り商店街振興組合専務理事・千歳鳥山商店街連合会事務局） 「鳥山商店街の街づくりに貢献して半世紀」

聞き手 三吉廣明 上人 令和3年4月28日 於 鳥山駅前通り商店街振興組合（理事長室）

田中家と妙壽寺のご縁

住職 今日は、田中さんに鳥山地域の街づくりについて伺いたいと思います。先頃、千歳鳥山街づくり委員会の発足にあたり、世田谷区広報紙「せたがや」に写真つきで一面トップで紹介されました。街づくり委員会は、田中さんが鳥山駅前通り商店街振興組合の専務理事でご活躍されているところに加えて、千歳鳥山商店街連合会街づくり委員会事務局も兼任されるということですか。

田中 田中さんが生まれ育ったこの商店街の事務局に今日はお邪魔しております。眼下には商店街通りを行きかう人々で賑わっていますが、この鳥山の商店街は、田中さんにとってどのような場所なのでしょうが。

田中氏（以下、敬称略） やはりふるさとでもあるし、生まれて育ったところでもあります。我々地元に着している商人というのは、よく例えて「農耕商人」と言っています。農耕民族そのもので、びったり張りついている。ところが今は、大手チェーンが、この街はどうかと売れそうだと出店してきて、売れないと撤退する。だから、遊牧民族なんです。

住職 遊牧とか狩猟の民族ですね。
田中 そういふ点では、スタンスが全く違います。私は、実はシューズ店をたてたみましたが、たとえ靴が売れなくなっても、ほかで商売しようという気はなかつた。ここで商売をして、この街を少しでもよくしていきたい。街に対する愛着の度合いというものが、もともとこの街で生まれ育った商人は全く違います。

住職 妙壽寺には、今は弟子の石塚さん（泰道師、当住持弟）、昔は墓地管理の露木さんがいて、田中さんは彼らとは小中学校の同年代でもありませんね。
田中 そうですね。石塚君とは中学校が一緒で、同じクラスでした。

住職 私は先代が早く亡くなったので、小学校の終わりが中学生くらいから、田中家には菩提寺としてお出入りをさせていただいています。田中さんのお父様の晩年を存じ上げていて、どちらかでご修行され、この鳥山の地にタナカシューズを開かれて、次にご子息の田中さんがご修行に出られて戻って来られた。タナカシューズさんの発祥というのは何年くらいですか。

田中 ここでお店を構えたのが昭和22年で、私が生まれた年です。その前に、祖父は、もともと浅草方面の人で、靴職人でした。おやじがその血を継いで、やはり靴職人です。私が見習いに行った五反田の地球堂さんは、先代の社長が東靴協会の会長も務めていたため、その仕事をさせてもらっていました。オーダーを受けた足型をもらってきて靴を作っている、そのようなことを長い間やっていました。私のおやじの代になって、自分の店を持つのですが、今の鳥山は、おふくろの出身の土地なんです。

住職 お母様がもともとはこちらのご出身ですか。
田中 そうです。屋敷林という有名なところがありますが、その隣に吉川家という地縁があつて……。

住職 吉川家のご一族ですか。
田中 その三女と結婚して、鳥山に小さなお店を構えました。
住職 でも、妙壽寺のお檀家になられたのは、遡ると、ご両親がこちらで一緒にいられた後ですか。
田中 だと思えます。私も記憶が定かではありませんが、ご住職らしき方がお店に来て、靴をオーダーしてくれたりおやじが言っていました。その縁で、檀家になつたようです。浅草での震災や空襲で、おやじの縁戚の消息が不明で、菩提寺も不明になってしまいました。結婚して鳥山に住むようになって、改めて私の祖父母の墓を妙壽寺さんにお願ひした次第です。

鳥山商店街は「スタンプサービス」の先駆者

住職 鳥山駅前通り商店街は、地域振興という点では非常に先覚者で、それと併せてスタンプ事業をされています。寺町の全体事業でお釈迦様の誕生日に執り行われる花まつりがありますが、一時鳥山の商店街で……。

田中 一緒にやりましたね。
住職 それが竜頭蛇尾で、その後……。

田中 あれは、区民センターを貸してくらくなりまして。役所のほうから、花まつりは宗教行事の一環として捉えているから貸せないと言われたんです。
住職 そういふこともありました。ただ、多分理事長のお気持ちとしては、寺町といふのは、文化的にも地域的にも、非常にいいものがあるんで、もっと街づくりと一緒に協力してもらいたいという意味で、『死者儀礼しかやらない』という厳しい一言がありました。私は、それは深く受け止めて、お寺といふのは、死者儀礼はもちろん大事です。東日本震災のときも、お寺は「供養と祈願だ」と改めて思いましたが、もう一つは地域と連携の大切さです。そういふことが二十数年前にあつて、それを踏まえ……。

田中 そんな失礼なことを言ったのですか。
住職 田中さんは今、地域といふことをどのように思っていますか。
田中 いまだに多くの人から言われますが、鳥山は寺町という大きい財産を控えているのに、何で利用しないのだと。利用と言つて語弊がありますが、コラボして、もっといろいろなことができるのでは、と。全くそのとおりです。そういう点では、まだ十分に寺町とつながっていないという気はしますね。

住職 それは、地域に根差している農耕民族と遊牧民族の話の中で、スタンプサービスは農耕民族の逆襲かなという感じがありました。スタンプサービスの発祥地としていかがですか。
田中 私がまだ子どもの頃、布団屋さんとか靴屋、洋服屋、そついった店が集まつて、毎月1日〜3日を「割引引きデー」



居心地のよい鳥山の街づくりに取り組む田中省一氏

をやっていました。その日は、お客さんは大勢来るんです。ところが、その後来ない。月末になると、もうすべ1日だから、買つのを待ってからと、買い控えが起きてしまつた。これではいけないといふので、365日何かサービスするものがないかといふことで、スタンプサービスを発想して、「ダイヤスタンプ」と名付け、昭和40年にスタートしました。その頃は、八百屋さんや魚屋さんなどから、「手が濡れているから、こんなやつをもらっていられないよ」とかいろいろ言われたそうです。

住職 言われそうですね。八百屋さんといふと、その頃は天井にゴムでつるしたザルにお金を出し入れしていましたね。
田中 みんな、そつですよ。レジなんか使つていなかった。そんな時代なので、一々そんなのせないとつづつ。それでも着実に地道にやつていって、たくさん集めてくれた人に、スタンプを5冊持つてくれればイチゴ狩りや新橋演舞場に招待して、年に1回か2回のイベントを実施してました。

ですから、組合が発行するだけで、お客さんはあまり使わないので、未回収のまま、預り金が大分たまつてしまつた。15年くらいたつたときに、かなりの額になつて、税務署に預り金の多さは何だと指摘されました。状況を説明したら、それは利益にもなる、過去4年間の分は預り金として認め、それ以上は雑収入で利益にして、税金を払えといふことになりました。では、使わなければいけないと、15周年記念に「北海道招待」と掲げました。それが大きな飛躍となつて、お客さんが一生懸命集めるので、未加入店に「なぜシールをくれないか」となるわけです。
住職 それは、お客さんは言いますね。
田中 商店街役員が加入を勧めてもけんかになつて駄目なんです。お客さんの一言がすぐ効くんです。それで急にスタンプを出すお店が増えてきて、そこから右肩上がりになつた。そういう意味では、税務署に感謝しなきゃいけない。

住職 全国商店街でのスタンプ事業は、先駆けだそうですね。
田中 新聞に取り上げられたことがありますが、新潟県の六日町が、うちが一番だと思つたとわざわざ来てくれたんです。



組合の財政基盤の1つとなるスタンプ事業（写真はダイヤスタンプ台紙とスタンプカード）
キャラクターは地名「鳥山」にちなんでカラスをモチーフに

話をしたら、ちよつと六日町さんのほうが早かつた。ただ、そこまで軌道に乗っていないし、ただ始めていふといふだけで、でも、おたくが1番いいですと言つてくれました。

住職 そついついことですか。
田中 平成元年に国（当時は通産省）から助成を受けスタンプ事業のカード化を行いました。システムの老朽化でリニューアルを行い、現在は4代目となります。お買い物ポイントはもちろん、ポイントポイント、地域事業参加ポイント、ペットポイント等コミュニケーションポイントも差し上げてあります。

この鳥山の地域は地域活動がすごく盛んなんです。ポランティアグループ（スラム鳥山）が駅を中心にクリーン作戦といふて、清掃活動をして今年で19年目になります。ポイントを渡しています。ほかに地域活動をしている、いろいろなグループがあります。
住職 清掃活動はいいですね。

商店街と寺町が共存する街づくりを

住職 田中さんはご両親と、亡くなられた奥さまのお墓参りは、毎週のようにお見えになりますね。それには本当に頭が下がります。今年の初めに田中さんのお勤めで、お寺の門のところに、ベンチを設置（テラス4号参照）しましたが、
田中 これは世田谷区の都市デザイン課が、「ひと休みできる場づくり」に取り組んでみませんかと呼びかけ、ベンチの設置費用を助成しています。安心なまちづくりの一環です。

住職 結構、皆さん使っています。お年寄りの散歩から犬の散歩まで、座つてひと休みしていますね。
田中 そついついことですか、ありがとうございます。
住職 田中さんは商店街の青年部から50年近く活動されてきました。その長い経験から、街づくりというのはどのように思われておられますか。
田中 商店街活動は、誘われていろいろやっているうちに、だんだん、気がつくると会計をやらされたり副理事長をやらされたりしてしまつたが、ベースには、自分の店がきちつとしていないといけないといふことで、それは守っていました。ただ、その頃、おかげさまで、バブルと言われる景気がいい時代に生きられたといふのは、ある意味幸せでした。その頃集まつた連中が、青年部がだんだん強くなり、中心になっていました。

今の若い人達を見ていると、店の歯車の1つになつていけるから、私たちの時代のように、昼間、ちよつとお茶を飲みながらつづつ、そついついことかほほでさなくつづつ、集まるにしても、閉店後ですから、8時9時になつてしまつた。そついつい意味では、だんだん活動がしなくなつてきたのかなと。経済状態があまりよくなつてきたのは確かにはあります。

住職 商店街も全国都道府県も画一的なことではなくて、それぞれの特色の中で生き残りを賭けています。我が街鳥山には、寺町がある。田中さんとしては、商店街と寺町も含めて、これから寺町に思つたところはありますか。
田中 これだけいい環境がバックにあるといふ商店街、駅はないと思います。これからもコラボして、街のいい方向へ進められたらいいかなと。ただ、新聞にも掲載されていますが、今ちよつと京王線の立体化が進んでおり、あと2年か3年でできる予定ではあります。

それに合わせて、千歳鳥山連合会の中に街づくり委員会を結成しました。商店街と京王電鉄さんと役所だけで話をしていても街の声は聞こえないので、今まで3回にわたつて消費者懇談会という名目で、地域の人の要望を聞いています。
住職 私も寺町の一寺院として、考えていた点があります。寺町には24ヶ寺ありますが、例えば各お寺に500軒のお檀家が仮にあったとすると、1万2千のお檀家のうちの何割かは千歳鳥山の駅を利用します。そついつい意味では、実は知らず知らずのうちに関係性もあり、貢献性もあります。お寺のほうとしても街を楽しんで欲しいです。そんなことも将来視野に入れて、これからすばらしい関係を築いていけると思っています。

最後に、お寺に対して苦言を含め、ひと言お願いします。
田中 私ちよつと鳥島邸が好きですが、地域の方々に見学をしたいと思います。声をかけられます。皆さんも世田谷区全体の財産だと思つているので、世田谷中から寺町のいいところを見たいといふ人たちは大勢おられます。これからも、しっかりと保存してほしいと思います。
住職 江戸東京の史跡がたくさんあるのですね、それはぜひご活用いただければと思います。

今日は、田中さんが地域のために貢献されていることを改めて思い知りました。お寺もいろいろご無理も言いますが、今後とも、よろしくご指導願ひします。
田中 こちよつとそついついご願ひいたします。

（一）



商店街にある事務局「えるもーる鳥山」の前で